

4. 補足資料（用語解説、参考文献等）

補足資料：用語解説

ことば	意味
性自認（Gender identity）	自分の性別をどう認識しているか？という概念。「性同一性」ということもある。
自認する性別	自分自身が認識している性別。男性、女性だけでなく、中性、無性、Xジェンダー、決めたくないなどさまざま。
出生時に付けられた性別 （Assigned gender at birth）	出生時の生物学的な性をもとに判断された性別。男性/女性の二者択一で、日本では出生届をもとに、戸籍や住民票などに記載される。 ※今回の調査では、「出生時の戸籍の性別」を使用。近年では「出生時に割り当てられた性別」が使用されることが増えた。
性別違和（Gender dysphoria）	出生時に付けられた性別に対し、不一致・違和感を覚えること。
トランスジェンダー（Transgender）	出生時に付けられた性別と性自認が一致しない人の総称。
シスジェンダー（Cis gender）	出生時に付けられた性別と性自認が一致し、それに従って生きる人。トランスジェンダーではない人。
性同一性障害 （Gender Identity Disorder）	トランスジェンダーの中でも、性別違和が非常に強く、苦悩する人に対して使われる医学的な「診断名」。GIDはGender Identity Disorderの略称。 2018年6月、世界保健機関（WHO）は、国際疾病分類の第11回改訂版（ICD-11）にて精神疾患から除外し、Gender Incongruence に置換えを決定（邦訳は「性別不合」）。2019年5月正式承認、2022年1月発効。
Xジェンダー（X-gender）	出生時に付けられた性別にかかわらず、性自認が男性／女性に二分できない人、男女の枠にとらわれない性のあり方の人。性自認は中性や、男女どちらにも属さない無性、どちらにも属する両性など、さまざま。Xジェンダーは日本独特の表現で、英語圏ではノンバイナリー（Nonbinary）という。
FTM（Female To Male）*	出生時に付けられた性別は女性だが、性自認は男性である人。トランス（ジェンダー）男性ともいう。
MTF（Male To Female）*	出生時に付けられた性別は男性だが、性自認は女性である人。トランス（ジェンダー）女性ともいう。
FTX（Female To X-gender）*	出生時に付けられた性別が女性である、Xジェンダー。
MTX（Male To X-gender）*	出生時に付けられた性別が男性である、Xジェンダー。
自認する性別のトイレ	自分自身が認識している性別のトイレのこと。男性用トイレまたは女性用トイレ。ただし、「Xジェンダー用トイレ」はない。
出生時戸籍性別のトイレ	出生時に付けられた戸籍の性別のトイレのこと。男性用トイレまたは女性用トイレ。
性別不問のトイレ	男女共用トイレなど、性別を限定しないトイレのこと。
LGBT（エルジービーティー）	レズビアン(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)、バイセクシュアル(両性愛者)、トランスジェンダーのそれぞれの英語の頭文字を組み合わせたことばで、性的マイノリティ（性的少数者）の総称のひとつ。LGBは性的指向（どのような性別の人を好きになるか/ならないか、ということ。）に関するマイノリティ、Tは性自認に関するマイノリティ。
SOGI（ソジ）	性的指向（Sexual Orientation）と性自認(Gender Identity)の頭文字を組み合わせたことば。性的指向（SO）や性自認（GI）は、すべての人に関わる属性。性表現（Gender Expression）と性的特徴（生物学的・解剖学的性別：Sex Characteristics）とあわせて「SOGIESC（ソジエスク）」ということもある。

補足資料：参考文献 ※著者名50音順

- 1) 池田官司 2013.「性同一性障害当事者数の推計」『産婦人科の実際』 62: pp.2105-2109.
- 2) 大島義孝・佐藤俊樹 2016.「性別違和の受診状況と人口割合」『こころの科学』 189: pp.28-32.
- 3) 佐藤俊樹・齋藤利和ほか 2014.「『性同一性障害に関する委員会』による性同一性障害症例数と国内性別適合手術例数の推定調査」『GID(性同一性障害)学会雑誌』 7: pp.73-75.
- 4) 寺原真希子編集代表、弁護士法人東京表参道法律事務所編著 2018.
「自認する性別に基づくトイレ・更衣室利用の可否」『ケーススタディ職場のLGBT』 ぎょうせい pp.84-88.
- 5) 永野靖 2018.「事例紹介：経産省事件（性同一性障害者の職場における処遇）」『ジェンダーと法』 No.15: pp.132-136.
- 6) 日本労働組合連合会 2016.「LGBTに関する職場の意識調査 報道発表資料」
<https://www.jtuc-rengo.or.jp/info/chousa/data/20160825.pdf>
- 7) 針間克己 2017.「『性同一性障害に関する委員会』による性別違和が主訴の症例数と国内外性別適合手術例数の推定調査 第2回」『GID (性同一性障害)学会雑誌』 10: pp.145-146.
- 8) 東優子 2016.「トランスジェンダー概念と脱病理化をめぐる動向」『こころの科学』 189 : pp.66-72.
- 9) 東優子 2018.「トランスジェンダーの医療と人権」『ジェンダーと法』 No.15: pp.120-131.
- 10) 柳沢正和、村木真紀、後藤純一 2015.『職場のLGBT読本』 実務教育出版
- 11) 株式会社LIXIL・NPO法人虹色ダイバーシティ 2016.『性的マイノリティのトイレ問題に関するWEB調査結果』
https://newsrelease.lixil.co.jp/user_images/2016/pdf/nr0408_01_01.pdf
- 12) Health Policy Project, Asia Pacific Transgender network, United nations Development Programme. 2015.
Blueprint for the Provision of Comprehensive Care for Trans People and Trans Communities. Washington, DC: Futures Group, Health Policy Project.
- 13) 釜野さおり・石田仁・岩本健良・小山泰代・千年よしみ・平森大規・藤井ひろみ・布施香奈・山内昌和・吉仲崇：2019.『大阪市民の働き方と暮らしの性の多様性と共生にかんするアンケート報告書（単純集計結果）』JSPS科研費 16H03709「性的指向と性自認の人口学－日本における研究基盤の構築」・「働き方と暮らしの多様性と共生」研究チーム（代表 釜野さおり）編 国立社会保障・人口問題研究所 内

補足資料：国内調査におけるトランスジェンダーの構成比、割合について

前ページの参考文献におけるトランスジェンダーの構成比および割合については、下記のとおり

- ・参考文献 1) : 性同一性障害の受診者数 全国で推定約4万6千人
- ・参考文献 3) : 2012年末までの国内医療機関受診者数合計は15,105例。
FTM : MTFの構成比は1.83 : 1 (FTM64.7%、MTF35.3%)
(日本精神神経学会「性同一性障害に関する委員会」による、性同一性障害・性別違和の受診者が多数いると推測される機関への調査 ; 7)も同様)
- ・参考文献 7) : 2015年末までの国内医療機関の受診者数合計22,435例のうち、FTM 14,747例 (65.7%)、MTF 7,688例 (34.3%)
診断書数合計4671例のうち、性別不明813例を除き、FTM 2,929例 (75.9%)、MTF 929例 (24.1%)
- ・参考文献 11) : 出生時戸籍性別が女性のトランスジェンダー FTM・FTX : 62.5% (n270)
出生時戸籍性別が男性のトランスジェンダー MTF・MTX : 37.5% (n162)
FTM、MTFに限定した構成は、FTM 54.7% (n128)、MTF 45.2% (n106)
- ・参考文献13) : 出生時の性別が男で、現在の認識が「女」である人は6人、「その他」と回答した人は6人。これらの回答を「トランスジェンダー」とみなすと、出生時男性1,754人の中の「トランスジェンダー」割合は0.7% (12人)。
出生時の性別が女で、現在の認識が「男」と回答した人は4人、「その他」と回答した人は16人。これらの回答者を「トランスジェンダー」とみなすと、出生時女性2,517人の中の「トランスジェンダー」割合は0.8% (20人)。

トイレのオールジェンダー利用に関する意識調査 報告書（公開用資料）

Public Report on the “2022 Study of Attitudes Regarding Restrooms for All-Gender Use”

2026年3月31日 第1版第1刷発行

編集・発行 —— トイレのオールジェンダー利用に関する研究会
Research Group on Restrooms for All-Gender Use
(Kanazawa University, COMANY INC., LIXIL Corporation)
国立大学法人 金沢大学内

無断転載禁止 ©トイレのオールジェンダー利用に関する研究会2022（金沢大学、コマニー、LIXIL）

